

令和5年度連携排砂計画（案）及び  
 連携排砂に伴う環境調査計画（案）に関する関係団体からの意見と対応について  
 【令和5年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>排砂計画（案）について                      &lt;入善漁業協同組合&gt;</p> <p>（1）より自然に近い形で排砂するため、繰り返しになりますが、一回の排砂量が30万m<sup>3</sup>を超えないよう排砂基準を見直し、排砂回数を増やすなどして一回の排砂量を極力少なくし、目の粗い土砂の排砂を要望します。</p>	<p>（1）（2）（3）</p> <p>令和5年度の連携排砂計画（案）では、昨年得られた『新たな気づき』として、1回の排砂量は出水の規模に加え、出し平ダムの堆砂形状に影響を受けることや排砂作業の早い段階で土砂が排出することが想定されることなどから、従前通り当該年度最初の排砂基準を満たした機会に目標排砂量を排出する現在の排砂方法としています。</p> <p>なお、排砂回数を増やすことは、1回の排砂量を減らすこととなりますが、排砂期間中の排砂可能となる出水の機会は限られますので、気象条件によっては、目標排砂量を排砂できない可能性も生じます。</p> <p>今後なるべく一回の排砂量を減らす方策として、確実な排砂の実施と通砂や細砂通過放流による土砂堆積の軽減に努めてまいります。</p> <p>粗い土砂の排砂は、現在取り組んでいる先行操作が有効であると考えております。</p> <p>先行操作を含めた排砂の方法については、学識経験者の専門的な知見により助言・指導いただき、また、関係機関や関係団体のご意見を伺ってまいります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>&lt;富山県漁業協同組合連合会&gt;</p> <p>(2) 漁業者は一回の排砂量が 30 万 m<sup>3</sup>以内であれば漁場への影響が少ないと、これまでの経験から感じています。しかし、昨年度排砂が行われなかったことで、今年度の排砂量が 30 万 m<sup>3</sup>を超える可能性（5月測量結果 35 万 m<sup>3</sup>）があることから、これまで要望した通り排砂・通砂の実施にあたり一回の排砂量が 30 万 m<sup>3</sup>を超えないよう要望します。</p> <p>(3) 粗い土砂の排出には宇奈月ダムの先行操作が有効とのことなので、その効果を検証するとともに、漁業者が希望する「より自然に近い形での排砂方法」をご検討いただきたい。</p>	

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>&lt;富山県漁業協同組合連合会&gt;</p> <p>(4) 「実施基準」「中止基準」について、昨年は排砂準備に入ったものの途中で流入量が減ったことにより中止となったことで、排砂が実施されず1年以上経過した土砂が堆積する結果となりました。</p> <p>海域への影響を考慮して、堆積して1年以上経過した土砂は流さぬよう要望するとともに、より自然に近い形で堆積土砂を排出するよう実施基準及び中止基準の見直しを要望します。</p>	<p>(4) 令和4年度の連携排砂は、排砂実施に至る出洪水が発生しなかったため未実施となりました。</p> <p>「より自然に近い形での連携排砂」を目指し「実施基準流量」や「中止基準流量」等について、排砂運用の工夫や改善等の余地がないか、関係機関との意見交換などを通し、検討しているところです。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業 関係団体	<p>漁業振興対策について</p> <p>&lt;入善漁業協同組合&gt;</p> <p>(5) 排砂の影響により入善漁港の出入口に土砂が堆積したことで、風が吹くと出入口付近に波が起きて船の入出港に支障をきたすことから、漁港出入口の浚渫を実施していただきたい。</p> <p>ブルーカーボン事業などを活用した藻場造成を振興策として実施していただきたい。</p> <p>&lt;富山県漁業協同組合連合会&gt;</p> <p>(6) 下新川海岸で実施されている藻場保全の試験施工について、引き続き富山県水産研究所と連携して実施していただくとともに、関係漁業者の意見も取り入れていただき、より効果的な試験施工を実施していただきたい。</p>	<p>(5) (6)</p> <p>今後も引き続き富山県水産研究所と連携して、下新川海岸での藻場保全の試験施工を実施してまいります。また、実施にあたり関係機関と協力して環境に配慮した整備に努めてまいります。</p> <p>黒部川や下新川海岸の工事・管理を目的として実施している測量成果より、黒部川河口や入善漁港付近の土砂堆積状況を確認することができることから、漁港管理者とも情報共有するなど協力してまいります。</p>

【令和5年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業関係団体	<p>(1) 細砂の堆積による河床上昇が河口から上流11Km付近まで急激に広がっており、この移動・除去を大至急対応頂きたい。連携排砂が原因であることは明らかであり、河口に溜まった砂は鮭や鮎の遡上を妨げ、河川に溜まった砂は石を覆い隠し、魚の餌となる珪藻がはえる餌場や産卵場を減少させ、“魚の住みづらい川”に変えている。この細砂が多い点については、粒度分析を環境調査の一項目に加えて頂くことで一目瞭然であり、是非とも今年度実施頂き、“魚の住みやすい川”に近づけて頂きたい。</p>	<p>(1) 黒部川は連携排砂のみならず、出水により土砂の堆積や侵食を繰り返しています。</p> <p>土砂の変動により治水や河川環境への問題がある場合は河道掘削や樹木伐採等の必要な整備を行って参ります。また、『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、引き続き漁業者や学識経験者の意見を聴きながら整備に努めて参ります。</p> <p>なお、河川における河道状況調査として環境調査計画に基づく粒度分布調査や航空レーザー測量の他、定期的に河床材料調査等を実施しています。</p> <p>河川における魚類への影響調査について、学識経験者等の意見を踏まえつつ実施してまいります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>(2) 連携排砂の定義を見直して頂きたい。</p> <p>昨年8月20日19時に連携排砂の実施を決定され、黒部川の周辺住民や関係機関へ案内、その後手順通りに排砂ゲート開操作等を進められた。</p> <p>この案内からの動きを周辺住民・関係機関は連携排砂であると認識しており、これを「連携排砂」と定義すべきである。一方で内部的な連携排砂として国交省・関西電力が考える「自然流下開始から完了まで」と整理すべきである。この皆が共通認識できる定義にすること、即ち言葉の溝を埋めることが地域住民や関係機関からの信頼と理解を得る第一歩だと考える。</p>	<p>(2) 排砂ゲートを開操作することをもって本来の排出すべき土砂が排砂できるものではなく、自然流下方式によることで本来の目的である排砂が実施できると認識しています。</p> <p>このため、連携排砂実施機関では、連携排砂の定義を、両ダム共に自然流下開始から自然流下完了までとしています。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業関係団体	<p>(3) 出し平ダムへの流入土砂量が想像以上に多いことは周知の事実であり、連携排砂にだけ頼っているのではなく、現に実施済みである人為的な排除についても明らかにし、並行して検討頂きたい。</p>	<p>(3) 出し平ダムは、中部山岳国立公園内にあることなどから、関係行政機関の指導を頂きながら、湛水地内で維持管理上必要な土砂移動を行っています。</p> <p>なお、連携排砂の運用にあたっては、出し平ダムは各年の目標排砂量と想定変動範囲を定め、利水機能を適確に維持しながら、排砂による環境への影響をできるだけ軽減するように、出水にあわせて連携排砂を実施してきました。</p> <p>引き続き連携排砂による運用を行うと共に、排砂が確実に実施できるよう努めてまいります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業関係団体	<p>(4) 連携排砂・通砂は細砂や浮遊泥により河川の濁りを引き起こし、その濃度や継続時間によっては、魚の成長速度の低下・鰓の表面の上皮の損傷・鰓の閉塞や病気に対する抵抗力の低下といった悪影響を与える。</p> <p>この点についても、環境調査の一環として加えて頂き、その結果を踏まえて魚への影響の少ない連携排砂のやり方を検討して頂きたい。</p>	<p>(4) 連携排砂・通砂を実施する際は、土砂の排出に加え、降雨などによる出水もあることから河川の濁りなどが生じています。濁りの程度は排砂の規模やその時の条件等の違いにより変化があるものと考えております。</p> <p>また、それらの影響に関する各種調査やより自然の出水に近くなるような排砂方法については、学識経験者の専門的な知見により助言・指導いただき、また、関係機関や関係団体のご意見を伺いながら行ってまいります。</p>



関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業関係団体	<p>(5) 評価委員会のメンバーの方々との協議の場を設定頂きたい。</p> <p>実際に黒部川をご案内し、平成3年の連携排砂実施以前と今の違いを詳しくご説明させて頂くと共に黒部川のあるべき姿や将来の目指す姿について協議させて頂きたい。</p> <p>このような取り組みが、黒部川ダム排砂評価委員会における議論を活発なものにする意味で、お役立ちに繋がると確信している。</p>	<p>(5) 黒部川ダム排砂評価委員会は、漁業や水産資源などそれぞれ専門的な立場から排砂による影響について評価をいただく場であり、評価委員の方々には、これまでも黒部川や連携排砂を視察いただいております。</p> <p>河川環境等に配慮した取組については『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、ご意見頂き、その取組については黒部川ダム排砂評価委員会でも紹介させていただいております。</p> <p>引き続き『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じてご意見・ご協力をお願いいたします。</p>

【令和5年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
<p>農業 関係団体</p>	<p>(1) 近年農業は担い手農家等に農地が集約され、大規模経営となっております。</p> <p>そのため、担い手農家等は、水の必要な時期が以前と比べ長期間必要となっており、連携排砂による断水時期と農作業の関係に強く不安を抱いております。</p> <p>こうした農業情勢の変化を充分考慮され、連携排砂の実施時期及び期間を検討していただくとともに、実施情報提供の更なる周知に努めて頂きたい。</p> <p>また、農作業の影響を最小限にするため、連携排砂及び通砂による合口用水の取水停止時間が長期化しないよう検討願います。</p>	<p>(1) 雨の降り方の変化等を踏まえ、今後とも、関係団体と連携を密にしてご理解・ご協力を得ながら、連携排砂の実施時期が適切なものとなるよう努めてまいります。</p> <p>また、令和3年度から「連携排砂の体制・実施状況の情報提供の改善」として、Twitterによる連携排砂の体制・実施状況を伝達する取組や「連携排砂の予報」（可能性の高い・低い降雨日の情報）を2～3日前にホームページやTwitterで提供する取組も行っているところです。</p> <p>今後も連携排砂等を実施するにあたっては、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう、分かりやすい広報、情報提供に努めてまいります。</p> <p>また、合口用水については、連携排砂実施中だけでなく、出水初期から連携排砂および出水後の安全確認が終了するまでの間、取水を停止しており、降雨や出水規模による影響を受けます。</p> <p>このような状況を踏まえ、関係各所と意見交換等を行い、短縮に向けた実現可能な改善策がないか引き続き検討してまいります。</p>